

演劇ワークショップ事業の概要について

事業導入の背景

- 社会構造の変化が進む中、多様な他者と協力しながら、社会参画するためのコミュニケーション能力が求められている
- 高校によっては、コミュニケーションを図ることが苦手で学業や対人関係に行きづまりを感じる生徒や、日本語能力が十分でない外国人生徒が多く在籍

目的

- プロの演出家や俳優等を講師とし、演劇表現等のワークショップを実施することにより、表現活動を通して、コミュニケーション能力や自己表現力を向上

事業内容

- 1年生全員がワークショップを年間3回実施
(1回あたり2時間程度、クラス単位で少人数に分けて実施)

これまでの導入実績

年度	実施校等 <small>下線は新規</small>	校数	国予算（文化庁）
H24～	東濃	1	
H26～	東濃、 <u>不破</u>	2	
H29	文学座と県教育委員会が連携協定を締結（H30.3.28）		文化芸術創造活用プラットフォーム形成事業
H30～	東濃、不破、 <u>羽島</u> 、 <u>山県</u> 、 <u>揖斐</u> 、 <u>恵那南</u>	6	先進的文化芸術創造活用拠点形成事業
R1～	東濃、不破、 <u>羽島</u> 、 <u>山県</u> 、 <u>揖斐</u> 、 <u>恵那南</u> 、 <u>郡上北</u> 、 <u>関有知</u> 、 <u>土岐紅陵</u> 、 <u>坂下</u> 、 <u>飛騨高山</u> 、 <u>飛騨神岡</u>	12	先進的文化芸術創造活用拠点形成事業
R2～	東濃、不破、 <u>羽島</u> 、 <u>山県</u> 、 <u>揖斐</u> 、 <u>恵那南</u> 、 <u>郡上北</u> 、 <u>関有知</u> 、 <u>土岐紅陵</u> 、 <u>坂下</u> 、 <u>飛騨高山</u> 、 <u>飛騨神岡</u> 、 <u>華陽フロンティア</u>	13	先進的文化芸術創造活用拠点形成事業 （R4. 文化芸術創造拠点形成事業）

< R3. 実施状況 >

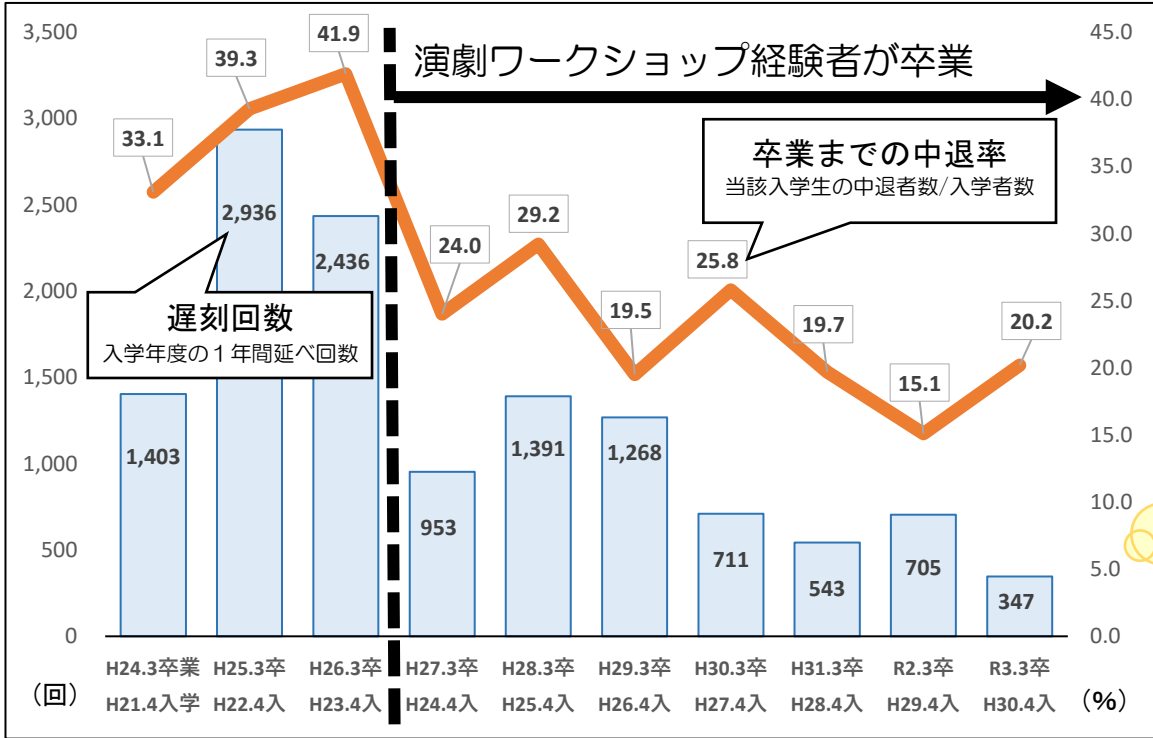
- ◆ 県立高校 13校 / 63校 で実施
- ◆ 県立高校の1年生のうち、約10% が体験（1,217人 / 12,261人）

事業効果について

期待される効果

- * 生徒の自己表現力の向上
- * 他者の受け入れ
- * 人間関係の構築
- * 挫折感の共有
- * 自己肯定感の向上
- * 周囲への配慮
- * 安心な居場所形成
- * 社会性等の人間関係形成能力の育成 等
- * 問題行動の減少
- * 不登校・中退者の減少

演劇ワークショップ実施前後の状況 < A 高校 >



県教育委員会調べ

**演劇ワークショップ導入を機に、
生徒の様子に変化
中退率や遅刻回数が減少傾向**

参加者（生徒、教員）の感想について

生徒の感想

- * 恥ずかしい気持ちをなくすことが大切だと思った。
- * 相手の顔を見て話すことが大切だと思った。
- * クラスの仲が、最初に比べてすごく良くなったと実感できた。
- * 誰かに何かを伝える時、中途半端では逆に相手の気持ちとすれ違ってしまふと感じた。
- * 全力でやれば失敗してもあまり後悔しないことがわかった。これからは失敗を恐れず、いろいろなことに挑戦したいと思った。
- * 本当の自分を少し出せたかなと思った。

教員の感想

- 生徒への声掛けや注目のさせ方がとても勉強になった。
- 日頃とは違う生徒の新たな一面を見ることができた。
- 生徒が以前より相手の立場に立つようになった。
- 日々の生活の中で新しいことにチャレンジしようとする生徒が増えた。

■ 演劇ワークショップ後のアンケート結果 (R3 実施校(13校)の合計値)

※ 生徒の回答率の高い順、教員は生徒について感じたことを回答

質 問	回 答	
	生徒	教員
言葉だけではない、コミュニケーションの方法が学べた。	96.0%	96.1%
あなた（生徒）にとって有益であった。	90.5%	96.1%
参加することで、自分の感情を解放できた。	91.0%	95.1%
相手の目を見ることを意識した。	90.1%	88.3%
先生やクラスメイトとの距離が近くなった。	85.2%	84.4%
自分の意見を他の人が聞いてくれていると実感できた。	87.0%	83.5%
他の人に受け入れてもらえる安心感を得ることができた。	85.5%	88.3%
クラス内での垣根がなくなり、クラスの一体感が増した。	83.3%	71.8%
クラスメイトの新たな側面を見て、印象が変わり、話してみようと思った。	81.3%	75.7%
間違ってもいいから、意見を言ってみようと思えた。	80.5%	68.9%

- ◆ 肯定的な意見が大半を占めている
- ◆ 他者との接し方や感情面のコントロールにおいて、高い評価となっている

課題・今後の展開（案）について

課題

- 情報通信技術の発達や産業構造の激変、少子高齢化の進行等、生徒を取り巻く環境の変化に伴い、教育課題が多様化・複雑化
- 他者とのコミュニケーションを図ることが苦手なこと等により、学業や対人関係等に行きづまりを感じる生徒が多くの学校に在籍
- コロナ禍による休校や学校行事の中止等により、他者との関わりをもつ機会が減少



今後の展開（案）

- ◇ 学校のみで対応することが困難な課題もあり、外部との連携を図り、外部からの支援を拡大
 - 地域社会や企業との連携（支援）、専門機関や専門家との連携（支援）
 - 《そのひとつとして》演劇ワークショップ事業を充実
 - ・ より多くの教員が、演劇ワークショップを体験し、意識改革を図り、指導力を強化
 - ・ 近隣の学校（小中学校、特別支援学校等）の教員もワークショップに参加できる体制づくり

「全職員による生徒支援」「実施校以外の生徒への支援」「教員の生徒指導力」「地域とのつながり」などの一層の充実へ